

〔研究ノート〕

## 日本漢学文献の分類について

町泉寿郎・清水信子

### はじめに

現在、国文学研究資料館において、鈴木淳教授を研究代表者として、「日本古典籍総合目録データベース」(以下略「古典籍DB」)に新たな件名を付与し、分類するための「日本古典籍分類概念表」(以下略「分類表」)の確立のための共同研究が進められている(文部科学省研究助成基盤研究A「日本古典籍分類概念表の確立と古典籍総合目録データベースにおける分類化促進」)。一方、本学21世紀COEプログラム「日本漢文学研究の世界的拠点の構築」において日本漢文資料のデータベース化は採択時からの重要案件であったので、当初から該館における月例の「分類研究会」と、不断に連絡をはかってきた。すなわち、平成十七年十月十七日には、高山節也拠点リーダーが同研究会において「漢籍・準漢籍」について報告し、同研究会の方

針として準漢籍の概念は、「四部分類による漢籍の存在を前提とするものであるから、和書目録として独立している場合、その目録の中に、準漢籍という分類はかならずしも立てる必要はない」「少なくとも四部分類する必要性はない」(当日の議事録より)という方向に進んだ。

一方、町は日本漢文資料データベース化の一環として、国文学研究資料館が運用していた国書基本データベースの検索結果等を利用して、平成十八年三月に江戸期の漢学文献、および江戸・明治期の日本漢詩文文献の冊子体目録を編成した(『江戸漢学書目』『江戸明治漢詩文書目』)。「江戸漢学書目」については、国書基本データベースから漢学、および儒学に分類されている文献を取り出し、それを、いわゆる「準漢籍」<sup>1)</sup>に対しては漢籍のための四部分類を準用して分類し、それ以外の文献は書名の五十音順によって排列する二部構成で編集した。『江戸明治漢詩文書目』については、同じく国書基本データベースから

漢詩・漢文・漢詩文に分類されている文献を取り出し、明治期の文献については国立国会図書館のデータベースによって取り出し、それらを併せて刊行年・成立年など年代の判明している文献に関しては年表化し、別に全部を書名と著者名の五十音順によって排列し編成した。

両書目を編成したことを機会に、町は平成十八年四月から「分類研究会」にコアメンバーとして参加し、平成十九年二月二十六日に岡野康幸（本プログラム研究助手）・清水信子とともに「準漢籍」の分類について報告した。本稿は、その時の報告「分類表の検討―準漢籍について―」を基に作成したものである。

分類研究会の基本方針としては、「古典籍DB」に登録された文献（『国書総目録』と『古典籍総合目録』とがその主な情報源）の分類見直しを目的とし、その見直しのための土台となる分類を、『内閣文庫国書分類目録』（昭和三十六・七七年発行）『改訂内閣文庫国書分類目録』（昭和五十年発行）（以下略『内閣国書目録』）のそれに置いていた。我々が研究会の場で求められたのは、「準漢籍」のあるべき分類についてであったが、「古典籍DB」には当然ながら「準漢籍」という分類項目はなく、「準漢籍」と重なるの大きい文献群としては、まず「漢学」「儒学」に分類された書籍が想定された。したがって、我々の課題は、「古典籍DB」において「漢学」「儒学」に分類された文献

を、『内閣国書目録』における「漢学」、および他の国書とは別掲されている「準漢籍」と比較対照してその内容の異同を検討し、『内閣国書目録』におけるそれらの分類によって当該書を分類することの妥当性を検証することにあると判断された。本稿は、その具体的な検証作業の結果と、その作業を踏まえた日本漢学文献における新たな分類に関する提言である。なお、それに際しては、随時、資料の表1から4を参照されたい。

なお、本稿は本文を町・清水が共同で作成し、付表を主に清水が作成した。

## 一 内閣文庫目録の現状とその問題点

### （1）「準漢籍」の収録内容とその分類

中国古典に関する邦人注釈や編著、いわゆる「準漢籍」は、『内閣国書目録』、および『改訂内閣文庫漢籍分類目録』（昭和四十六年発行）（以下略『内閣漢籍目録』）のそれぞれに漢籍、および国書とは別に立項され、その分類は四部分類に準拠している。但し、その著録基準には曖昧な面があり、医書、天文暦算、藝術、仏書の中には、明らかに準漢籍、或いは漢籍として、子部の医家・天文算法、藝術、釈家の各類に分類することが可能な文献でありながら、国書として著録されているものが多い。

具体例を挙げれば、医書では、第十三門「医学」の第二類「漢方」に、多紀元簡『傷寒論輯義』、中西惟忠『傷寒論辨正』等の漢・張機『傷寒論』関連文献、また林羅山『本草綱目序註』、小野職博撰小野職孝等編『本草綱目啓蒙』等の明・李時珍『本草綱目』関連文献が散見し、天文曆算書では第十二門「理学」の第二類「天文曆算」に、西村遠里『天経或問注解』等の清・游藝『天経或問』関連文献が著録されているが、これらは準漢籍として各々子部の医家類、天文算法類に分類することが可能な文献である。ちなみに、それらの目録著録記事には、いずれも各編著者事項に原著者名の記載が無い。

仏書の場合、釈尊良耶舍訳『仏説観無量寿経』や釈鳩摩羅什訳『仏説阿弥陀経』等の經典の中に、各種諸本によつては、漢籍目録の釈家類に分類されるものもあれば、国書として第三門「仏教」の第二類「経・律・論・疏」に分類されるものもある。また編著者事項については、医書、天文曆算書の場合と同様、漢籍目録に著録される場合には明記され、国書目録に著録される場合には記載が無いが、意図したものであろうか。

その他藝術類では、書道の法帖類として、例えば『千字文』のような、テキストとしては漢籍とすべき内容のものも、日本人の筆跡である場合は、国書として第十五門「藝術」の第二類「書画」の「(三) 書蹟」に分類されている。同様にして同項「(二) 絵画」には、葛飾北斎画『絵本唐詩選五言絶句』が分類

されている。その他同項には、釈白華『佩文斎画説輯要』、曾根準『古今印例』が分類されているが、それらは目録によつては「準漢籍」の藝術類に分類される場合がある。

これら子部の医家、天文算法、藝術、釈家の各類に見られるように、内閣文庫の漢籍、国書の両目録における「準漢籍」の分類基準は一定しておらず、全体として統一されていない。これは本目録における問題点の一つである。

## (2) 「準漢籍」以外の漢学文献の収録内容とその分類

次に『内閣国書目』は、凡例によれば、その分類を『大東急記念文庫書目』(昭和三十年発行、以下略『大東急目』)のそれに準拠したといい、実際には蔵書構成を勘案して『大東急目』の分類に適宜修正を加えたものであるが、もともと大きな差違は、『内閣国書目』では、「準漢籍」として別掲された中国古典に関する邦人注釈が、『大東急目』では、漢籍とともに四部分類によつて各該当部類に排列されている点にある。

『内閣国書目』以降、その分類に倣つて「準漢籍」を立項する目録も増加したが、立項しない目録も依然として少なくない。例えば『二松学舎大学附属図書館和書目録』、また『静嘉堂文庫国書分類目録』等がある。前者は凡例によれば、その分類を原則として『内閣国書目』に準じており、『内閣国書目』が「準漢籍」以外の邦人論説等の漢学文献を、第五門「文学」

の第二類「漢文」の第一項「総記 附漢学」に分類しているのに倣って、それらの文献を、主に「G漢詩文」の「3 漢学」に配当し、また後者静嘉堂文庫は主に「二 漢文」の「(五) 雑著」に配当している(表1参照)。両目録とも「準漢籍」とは立項せず、それらに相当する文献は、『大東急目』と同様に漢籍目録に排列している。

「準漢籍」を四部分類する一方で、『内閣国書目』はひとつの分類項目内の排列は著作年代順に従っているもので、その結果として、同目録においては「総記 附漢学」の「漢学」は著作年代順に排列されるのみで、十分な分類されていない<sup>(3)</sup>。そのため、著述内容の詳細等実体が窺知しづらくなっている。

この他、該項目以外にも「古典籍DB」において「漢学」として分類される文献が分散しており、とりわけ第十一門「教育」の第二類「教訓」に、「古典籍DB」をはじめ各種目録において「漢学」分野に分類されている文献が散見する。例えば、同項には浅見綱斎『靖献遺言』、大塩中斎『洗心洞笥記』、貝原益軒『初学知要』が著録されているが、それらはいずれも「古典籍DB」では「漢学」に分類されている他、各種目録においても「漢学」分野に分類されている場合が少なくない。

或いはまた、その反対に那波魯堂『学問源流』のように『内閣国書目』では「漢学」に分類されているが「古典籍DB」では「教育」に分類されているような例があり、さらに『内閣国

書目』、及び「古典籍DB」では「漢学」に分類される林羅山『卮言抄』、佐藤一斎『言志録』が、目録によっては「教育」「教訓」分野に分類されている場合もある。このように「漢学」と「教育」「教訓」分野との分類基準は各種目録によってその判断が分かれるところであり、その境界は必ずしも明確ではない。

以上の挙例から、「古典籍DB」において「漢学」と分類される文献は、各種の分類目録においては、まず「準漢籍」と文学門・漢文類の一項目としての「漢学」、すなわち特定の中国古典に基づかない邦人論説等の漢学文献に分離されている。その狭義の「漢学」文献は十分な分類を施されておらず、さらに子細にみれば「教育」「教訓」にも隣接分野が広がっており、全体として「漢学」として自立していない感を否めない。

こうした文学門・漢文類の一項目としての「漢学」の分類が成立した要因としては、漢籍と国書の間際に「準漢籍」を立項したことにより国書の分類が、第一門「総記」、第二門「神祇(附国学)」、第三門「仏教」、第四門「言語」、第五門「文学」…の順となつて、「学問・思想」分野に分類すべき文献が国書の中から欠落し、その一方で「準漢籍」を除外したために「漢学」文献の絶対数が減少したことから「漢学」を独立させるに及ばなかったことが考えられる。

しかしながら、一機関の蔵書に止まらない、「古典籍DB」

のような聯合目録の場合では、上記のような「漢学」の分類に関する問題は、さらに増すことになると考えられる。例えば文学門・漢文類の一項目である「総記 附漢学」に排列する方法に従って、それを「古典籍DB」の最も大きな部分を占める『国書総目録』における分野別著録数で見ると、次のようになる。「漢学（八、三三二）・儒学（三六一）」計八、六八二件のうち、「準漢籍」として分類できるものは、前掲の『江戸漢学書目』における結果から、およそ六、〇一七件であるから、それ以外の二、八八四件もの文献が「総記 附漢学」に相当し、それが「漢文（六七三）・漢文集（四）・漢詩（五、七八八）・漢詩集（一〇）・漢詩文（三、四五五）・詩文（二四）・詩文集（二九）」計九九七三件の前に排列されることになるので、新たな分類項目の設定の必要性が感じられるゆえんである。まして、古典籍DBのように「準漢籍」を立項しない場合には、「漢学（八、三三二）・儒学（三六一）」計八六八二件が一团となるわけであり、その適切な分類の設定は不可欠である。

以上のように、『内閣国書目』の「準漢籍」「漢学」の分類には、問題点、及び課題があるため、新たな分類概念、及び「分類表」の確立に当たっては、それらを検討し改訂していかねばならない。そこで次に、『内閣国書目』系列の目録とは分類方針を異にする既存の各種目録における漢学文献の分類を参考にしてみよう。

## 二 参考にすべき目録

『内閣国書目』とその分類概念を異にする目録としては、例えば、無窮会図書館の諸目録、また『東北大学所蔵和漢書古典分類目録 和書』（昭和五十一年（一九七六）年発行）が挙げられる。それらはいずれも「準漢籍」という項を立てず、またその他の邦人論説等の分類については、『内閣国書目』よりも各文献の内容に鑑み、主体的に細分されている。そのため『内閣国書目』の既定の分類を改訂していくに当たり参考になるものと思われる。そこでまずそれら各目録における日本漢学文献の分類について概観する。

### （一）無窮会図書館の諸目録

無窮会図書館の主要な文庫目録には平沼文庫第一輯（川合槃山旧蔵書目録）（昭和三十一年発行）、同第二輯（昭和三十六年発行）、天淵文庫（昭和三十九年発行）、神習文庫（昭和十年発行）、織田文庫（昭和十六年発行）の各目録と、『真軒先生旧蔵書目録』（昭和八年発行、以下略『真軒目』）がある。いずれも漢籍と国書とは別掲されておらず、漢籍とその邦人注釈、及びその他論説等の漢学文献は、四部分類的概念に沿いつつ独自の項目設定により分類されている（表1参照）。

各目録の項目設定を順に見ると、平沼第二輯、天淵、神習はほぼ同一で、準漢籍は、經・子部に相当する文献を「第六門 學術・論説」「乙 經書」「丙 諸子」「丁 医学」等に、史部相当文献を「第二門 歴史・伝記」「第二部 中国」に、集部相当文献を「第七門 文学・語学」「丙 漢文学」にと概ね三分され、分類されている。そしてそれ以外の邦人論説等は、「第六門 學術・論説」「丙 諸子」に、漢籍、及びその邦人注釈とともに排列されている。中でも「一、儒家類」に分類される文献が多いため、該類はさらに山崎闇斎門とそれ以外として「(崎門)」「(除崎門)」というように、編著者の学派により細分されている。

次に織田文庫目録は、中国古典に関する邦人注釈については、經・子部相当文献は「儒道」の「經部」、及び「百家部」に、史部相当文献は「史部」の「支那」に、集部相当文献は「集部」の「漢文漢詩」に、各々漢籍とともに排列されている。そして邦人論説等は、「儒道」の「伝部」に「本邦撰述類」「崎門撰述類」等と、前出三目録と同様に闇斎門と非闇斎門という編著者の学派の別により分類されている。但し本目録の場合、漢籍は「支那撰述類」として国書とは区別されている。

他方、平沼第一輯と『真軒目』の場合はその蔵書構成が漢籍中心であるため、その分類設定はほぼ四部分類に準拠してお

り、漢籍と国書の分類は前出の諸目録に比し、より一元的である。そのため、例えば『真軒目』では、漢文体ではあるものの一般には「漢学」に分類されない『大日本史』『日本外史』『令義解』等についても、順に「乙 史部」の「一 紀伝類」、同「二 編年類」、同「八 職官政書類」に排列されている。さらに平沼第一輯においては、近代以降の和文文献についても漢籍と同列に四部分類により排列されている。これらの中で邦人論説は、両目録とも概ね子部に位置づけられ、平沼第一輯は「儒法雜家類」に、『真軒目』は「儒家雜家類」に排列されている。

(2)『東北大学所蔵和漢書古典分類目録 和書』(以下略『東北大目録』)

本目録における中国古典に関する邦人注釈は、經書、諸子類等經部、子部相当文献は大分類「二 哲学・宗教・教育」の中分類「(四) 儒教・諸子」のさらに下位分類「四 儒教古典注釈」「六 諸子」、或いは同大分類の中分類「(五) 道教・術数」に分類され、史部相当文献は大分類「三 歴史・地理」に、經部のうち小学類、及び集部相当文献は大分類「五 言語・文学」に各々分類されている(表1参照)。そしてその他の邦人論説等の漢学文献については、前出中国古典注釈の經部、子部相当文献とともに「二 哲学・宗教・教育」の「(四)

儒教・諸子」に分類されるが、その下位分類として、雑著的なものを「一 儒教総雑」に、伊藤東涯『古今学変』といった学術史的なものを「二 儒教史」に、浅見綱斎『家礼師説』といった儀礼的なものを「三 儒教儀礼」に分類し、各人の論説は「五 儒教教説」に、各編著者の学派別に分類され、注釈と一線を画している。そのため本目録の場合、中国古典注釈とその他の漢学資料は、二元的に分類されている面がある。その他、伊藤東涯『学問関鍵』、江村北海『授業編』、また前掲那波魯堂『学問源流』等の漢学に関する概論的な文献は、「二 哲学・宗教・教育」の「(一〇) 教育」の「一 教育総雑」に分類され、さらに、原念斎『先哲叢談』というような漢学者の伝記は、大分類「三 歴史・地理」の「(三) 伝記」に分類されている。

邦人論説の分類については、本目録は無窮会の諸目録よりも細分されているが、それは該当文献数の多寡をはじめとした蔵書構成の相違が関係していると考えられる。いずれにしても、それらの分類は、編著者に主点が置かれている。

### 三 分類試案

前項までの各種目録の現状と課題、及び参考点を勘案し、実際に「漢学」「儒学」分野における新たな分類項目の設定を試

みる。対象とすべき「漢学」「儒学」文献は、その基盤となる「古典籍DB」においては、「漢学」「儒学」と分類されているものの他にも、前述のように教育・教訓に分類されるものがあり、また後述のように歴史・法制・政治等々に分類されるものがある。今回は、それらを集約して、新たに大分類「漢学」を立項する。そしてさらに中分類、小分類等の下位分類の項目を設定し、分類していくこととする。下位分類について、それが中国古典に基づく文献である場合には、前項において参考目録に挙げた無窮会の諸目録、及び『東北大目』のように、経書、諸子、史書類という四部分類の概念に則る方法が、妥当と判断した。

それに対して、必ずしも特定の中国古典に基づかない各者の論説等については、『内閣国書目』では主に著作年代順により、前掲『江戸漢学書目』では書名の五十音順により、ともに分類を放棄しているが、分類項目を設定するには著述内容に従う方法か、または編著者による方法かが考えられる。著述内容に従う方法も検討したが、従来依拠すべき分類が無く、一から私案を作るしかないことが分かった。一方、編著者に関しては無窮会の諸目録、『東北大目』の分類概念が参照でき、国書全体という、より多様な資料に対応するため、『東北大目』の各所属学派による分類が有効であり、かつ学派別分類に関しては従来の漢学者に関する伝記研究の蓄積が利用できると判断

された。

また、「漢学」文献を四部分類を準用して分類した中国古典注釈と学派別に分類した邦人論説とに分類することは、一定の理念的根拠があると判断された。すなわち、国書における神祇門の文献が日本書紀等の注解を内容とする総記から始まり、続いて諸家神道を流派別に排列しており、同じく仏教門が概論・史伝等を内容とする総記から始まり、次いで経律論疏の注解を置き、続いて各宗派を排列しているのに、ほぼ対応すると考えられるからである。

したがって、大分類「漢学」に続く中分類の第一には、上述の神祇門、仏教門の分類理念に準じて「総記」を置き、叢書等、漢学に関する概論、漢学史や漢学者の伝記、及び儀礼や井田等に関する文献を配当する。そして次に特定の中国古典に基づく文献を「中国古典注釈」、続いてその他特定の中国古典に直接的には関わらない漢学全般に関する論説等を「論説」とする。

「中国古典注釈」は概ね経書、史書、及び諸子のように四部分類に準じた分類を採る。但し、中国古典に基づく文献であっても、該当する文献が無い、或いは少数の分野については初めからその項目を設けない。また該当文献数に関わらず「漢学」以外の他分野への分類が妥当な場合には、大分類「漢学」より除外する。その上で選定された対象文献に応じて小分類以下の

分類項目を設定する。そのためにはまず「古典籍DB」における中国古典に基づく文献について、『内閣漢籍目録』の四部分類により分類し、同DBと四部分類における分類項目を対照する必要がある。

対照結果は表2に一覧にしたが、四部各部類において「古典籍DB」における分類項目が複数ある場合は、その該当文献数が多い主な分類項目に「○」を付し、「△」以下に示した分類項目はその他の少数例である。これによって設定した具体的な分類項目は後述する。この対照作業を通して、これまで述べてきた「古典籍DB」における漢学文献の「漢学」以外の分野への散在状況、及びその近接領域分野が改めて明白となった。

一方、「論説」は各編著者の学派別により分類し、その学派の名称を小分類項目とする。この細分に当たっては、「学派」の概念、名称、また各自の「所属」等、諸問題が内在していると思われるため、それらをまず明確に定義しておかなければならない。

以下、実際の分類項目と対象文献例を挙げる。

#### (1) 設定分類項目 (表3参照)

##### ○大分類「漢学」

本分類は、原則として「古典籍DB」において「漢学」「儒学」に分類された文献を対象とする。但し、同DBにおいて該



分野に分類されているものであっても、「漢学」以外の他分野への分類が妥当な場合等は除外する場合があります、それについては後述する。

○中分類「総記」——小分類——小項目——細目

本分類は、漢学全般に関する概説的な文献を対象とし、小分類には、叢書その他雑著的な文献を配当する「総雑」、漢学に関する概論的な文献を配当する「概論」、漢学史や漢学者の伝記を配当する「歴史」、中国における儀礼、祭祀、井田等制度に関する文献を配当する「制度」を設定する。

○中分類「中国古典注釈」——小分類——小項目——細目

本分類は、大分類「漢学」の中で、原則として経書、諸子、史書、即ち四部分類において主に経部、史部、子部に分類される中国古典に関する注釈等を対象とする。その対象文献、及び小分類以下の下位分類項目は、経部から順に、易類以下四書類までは先の対照結果(表2参照)から「漢学」或いは「儒学」が占める。これらは大分類「漢学」の対象となり、次にそれらについて小分類、小項目、細目を設定し分類する。その分類は、第一に、いわゆる群経総義類に相当する「総記」を置き、次に易・書・詩・礼・春秋類に相当する「五経」小項目「易」「書」「詩」「礼」(細目「総義」「周礼」「儀礼」「礼記」「諸雑」)

「春秋」(細目「総義・諸伝」「左氏伝」「公羊伝」「穀梁伝」、四書類に相当する「四書」小項目「四書」「大学」「論語」「孟子」「中庸」「論孟」「学庸」、そして孝経類に相当する「孝経」とする。

その他経部の楽類は、元来分類される文献が少なく、管見では『律呂新書』関連文献があるが、それらは「音楽」に分類されておき、むしろ該分野へ移動したほうが分野としてのまとまりが得られやすいと判断されるため、大分類「漢学」から除外する。続く小学類も、「訓詁」に属す『爾雅』関連文献、「字書」に属す『千字文』関連文献は概ね「漢学」に分類されているが、同じ「字書」の属でも『玉篇』関連文献は「辞書」に、『説文』関連文献は主に「文字」に、韻書関係は専ら「音韻」に各々分類されているように、全般的に「言語」分野として分類することが可能であるため、こちらも大分類「漢学」から除外する。

次に史部については、まず正史類以下外国史類までの歴史関係では、編年類の『資治通鑑』関連文献、別史類の『十八史略』関連文献は、主に「外国史」に分類されているが、「漢学」としても分類され、正史類の『史記』『漢書』等、雑史類の『国語』『戦国策』等、伝記類の『晏氏春秋』『朱子行状』等の各関連文献は、主に「漢学」に分類されている。紀事本末・外国史の両類は該文献の有無は不明であるが、載記・史鈔・

史評各類は該当文献少数ながらも「漢学」に分類されているため、これら歴史関係は、「古典籍DB」において「外国史」に分類されている『資治通鑑』関連の編年類、及び『十八史略』関連の雑史類も含め、大分類「漢学」の対象とする。そして小分類は伝記類を「伝記」、その他は一括して「歴史」とする。

その他史部の地理類以下目録類については、元より該当文献の数は多くはなく、管見では表2に挙げた程度で、それらは「漢学」に分類されるときにも、他分野へも分類されている。

ちなみに地理類の『水経注』関連文献は、「古典籍DB」では「漢学」と分類されているが、無窮会の織田文庫目録では「地理部」の「外国」に分類されている。したがって、これら地理類以下の各類は、大分類「漢学」から除外し、地理類は「地理」分野へ、時令、職官、政書、詔令奏義の各類は「政治」「法制」分野へ、目録類は「書誌」「書目」分野等各該当分野へ移動することとする。

続いて子部は、儒家・法家・雑家・小説家・類書・道家の各類は概ね「漢学」に、術数類は「漢学」の他「占卜」に、そして兵家・医家・天文算法・藝術・譜録・釈家の各類は「漢学」以外の各該当分野に分類されている。小分類の項目設定は、基本的にはそれらに準じるが、小説家・兵家の両類の分類については、既存の各種目録に鑑み、変更する。

小説家類に分類される文献には、『世説新語』『山海経』『搜神記』『遊仙窟』等の関連文献があり、『世説新語』関連文献は、無窮会織田文庫目録では「史部―支那―伝記」に、『東北大目』では「三 歴史・地理―(三) 伝記―三合伝／外国合伝」に分類されている。その他『山海経』『遊仙窟』については漢籍が織田文庫目録に著録され、前者は「地理部―外国」に、後者は「演史小説」に分類されている。これにより、他分野へ移動可能と看做し、「小説家類」については立項しないこととする。

一方、兵家類には『六韜』『孫子』『呉子』『握奇経』『武経七書』等の関連文献があるが、「古典籍DB」においては一部「漢学」に分類されているものの、主に「兵法」に分類されている。それらの文献には林羅山『六韜諺解』、荻生徂徠『孫子解』、佐藤一斎『呉子副詮』等があり、その編著者から推察するに「漢学」として分類した方が適当と思われる。尚、羅山『六韜諺解』は無窮会平沼文庫第一輯目録には「兵家類」に、一斎『呉子副詮』は前出『真軒目』には「丙 子部」の「二 兵農医天算術数類」に各々分類されている。よって、本分類試案では大分類「漢学」に含める。

その他、子部において除外した類の中でも「漢学」へ分類した方が適当と思われる文献については、新たに「諸家」という項目を設定し、該項目に排列する。

集部については、『文選』『古文真宝』関連文献の一部には「漢学」に分類されているものもあるが、主に「漢文」「漢文集」「漢詩」「漢詩文」等文学分野に分類されているため、当初の方針の通り、「漢学」から除外する。

#### ○中分類「論説」・小分類

必ずしも特定の中国古典に基づかない漢学一般に関する論説等を対象とするが、漢学に関する概論、漢学史や漢学者の伝記、儀礼や井田等に関する論説は「総記」として別掲することは、前述の通りである。そして残る各人の論説については、各編著者の学派別によりに小分類する。立項した学派の名称は、『読史備要』所収の「儒学系図」に収載する四派に準拠し、「朱子学派」「古学派」「陽明学派」「折衷学派」とする。また編著者複数でその各学派が相違する場合は「総記」、編著者、及び学派不明等は「諸派含古代中世儒学、闕名」とした。編著者の学派は、原則として関儀一郎編『近世漢学者伝記著作大事典』に拠る。但し、同書は「程朱学」「敬義学」「陽明学」「古義学」「復古学」「古注学」「折衷学」「考証学」の八派に分類されるため、本分類試案の四派に以下のように適宜変換した。その対応は以下の通り。同書に学派が記載されていない人物については、該事典以外の参考文献、或いは実際の各文献の内容等により推定し、適宜分類する。

「総記」…編著者複数で各学派が相違する場合。

「朱子学派」…「程朱学」「敬義学」

「古学派」…「古義学」「復古学」

「陽明学派」…「陽明学」

「折衷学派」…「古注学」「折衷学」「考証学」

「諸派含古代中世儒学、闕名」…学派不明等

#### 四 まとめ、今後の課題

以上、今回、古典籍DBにおける「漢学」「儒学」文献について、「日本古典籍分類概念表の確立と古典籍総合目録データベースにおける分類化促進」という研究事業の目的のために、分類項目試案を設定し、四部分類を準用した中国古典に基づく文献と、編著者の所属学派によつて分類したそれ以外の邦人論説との、二元的な分類結果となった。一方では「漢学」という用語の定義の問題も浮上してくるが、今回は『古典籍DB』における」と限定したので、その問題にはあえて言及しなかった。そのうえで今回の分類作業の意義を述べるならば、『古典籍DB』における」という限定つきではあるが、従来「漢学」と分類されている文献の内容を解析するには、一定の成果があったものと考えている。すなわち、四部分類の中でも該当する漢学文献が無い分野、また、「古典籍DB」の分類において

「漢学」「儒学」との近接領域分野等が明らかになった。後者について具体例を挙げれば、経部小学類における「言語」、史部においては「歴史」「伝記」、また全般として「教育」「教訓」等である。

一方で、今回の作業過程においては、やはり日本における漢学文献の全体を一元的に分類したいという欲求も生じてきた。漢学文献の全体を一元的に分類するためには、どのような方法が可能であろうか。その一つとして漢学文献全体を、四部分類により分類することが考えられる。しかしこの場合、今回のように漢文文献の、しかも人文科学系の哲学思想文献に限ってしまつと、例えば自然科学系の医書等が脱落してしまふ。したがって、四部分類を採用するに当たっては、まず、漢文・非漢文を問わず、現在、他分野に著録されている、中国古典に由来する文献を注釈に限らず全て抽出した上で、新たに分類する必要がある。この方法は他律的ではあるが、中国の学術体系全体の中で、それを受けて生産された日本古典籍の全貌を把握するには、一定の有効性があるものと考ええる。

そこで参考までに、今回、各種漢文文献、或いは漢学関連文献を収載した主要な叢書として、関儀一郎編『日本名家四書註釈全書』（東洋図書刊行会／大正十一～五年発行）、同前編『日本儒林叢書』『日本儒林叢書続編』『日本儒林叢書統編』（同前／昭和二～十二年）、早稲田大学出版部編『漢籍国字解全

書』（早稲田大学出版部／大正十五年～昭和八年）、滝本誠一編『日本経済大典』（史誌出版社／昭和三～五年）、崇文院編『崇文叢書』（崇文院／昭和二～八年）、井上哲次郎・蟹江義丸共編『日本倫理彙編』（臨川書店／昭和四十五年）、塙保己一編『群書類従』（第八・九輯文筆部）（群書類従刊行会）から、四部分類に配当しうる文献を抽出し、実際にそれらの四部分類化を試みた（表4参照）。但し、各文献の内容を熟慮した上での分類ではないため、不適当な分類もあるが、一資料として了承されたい。また各分類内の排列は順不同である。なお、近世漢学文献を四部分類化した目録には、夙に寺田望南『大日本経解目録』<sup>(4)</sup>があり、中国に基づく文献を、「周易」「尚書」「詩」「礼」「春秋」「孝経」「諸経」「四書」に八分し、それら以外の漢学に関する論説を、「経」「史」「子」「集」の四部に分類している。

本稿が、「漢学」という諸領域にまたがる文献に対する関心を喚起する契機となることを期待して、稿を終える。なお、本稿に提示した新たな分類項目試案にしたがった、「漢学」「儒学」文献の分類目録を、別途作成中である。

#### 〔注〕

〔1〕 漢籍、国書とは別に「準漢籍」を立項した目録は、管見によれば、長沢規矩也氏が編纂に携わった内閣文庫の目録がその嚆矢

と思われる。「準漢籍」の定義については、長沢氏が『古書のはなし』（富山房／昭和五十一年十一月発行）においてその概要を示し、またそれについて高山節也氏は、高橋智氏、山本仁氏とともに、『漢籍目録編纂における準漢籍の扱いについて』（『汲古』第四十六号／汲古書院／平成十六年十二月）において具体的文献名を挙げつつ、概念規定を提示されている。

（２）漢学と儒学とは、内容的に相互間に明確な分類概念が存在したとは考えにくい。例えば、「大学」と「中庸」を総称した「学庸」に関する注解書は儒学と分類されているが、「大学」「中庸」それぞれの注解書は漢学に分類されている。

（３）著作年代順に排列された後に、中国における儀礼・葬祭・井田に関する制度的な文献が附されている。なお、日本におけるそれら儀礼、葬祭、井田については、順に、第九門「政治・法制」の第七類「典例・儀式」、第二門「神祇」の第三類「祭祀」の「（七）葬祭」、第十門「経済」の第四類「地方」等に分類されている。

（４）東京都立中央図書館井上文庫（請求記号井三五一）所蔵。該目録に関しては、内野台嶺「日本経解について」（徳川公継宗七十年祝賀記念会『近世の儒学』一二七頁～一四九頁所収／岩波書店／昭和十四年八月発行）において、井上哲次郎の話を引用して言及されている。

表1 各種目録における日本漢学文献の分類設定例

各種目録	大分類	中分類	小分類
日本古典籍総合目録データベース			「漢学」「儒学」他(「歴史」「地理」「書目」「法制」「医学」「天文」「芸術」「宗教」等々各種該当分野)
内閣文庫国書分類目録	一 総記	4 随叢	
	五 文学	2 漢文	(一)総記 附漢学
	一一 教育	2 教訓	
	一二 理学	2 天文歴算	
	一三 医学	2 漢方	
	一五 藝術	2 書画	
	一八 準漢籍	(四部分類)	
二松學舎大学付属図書館和書目録	一 総記	4 随叢	
	五 文学	G 漢詩文	1総記 2論 3漢学
二松學舎大学付属図書館漢籍目録	(中国古典に基づく注釈等邦人著作は漢籍目録に分類)		
静嘉堂文庫国書分類目録	三 文学 語学	二 漢文	(一)別集 (二)総集 (三)詩文評 (四)遊記・名勝 (五)雑著
静嘉堂文庫漢籍分類目録	(中国古典に基づく注釈等邦人著作は漢籍目録に分類)		
無窮会図書館平沼文庫蔵書目録 (第二輯)	第二門 歴史・伝記	甲 歴史	一、世代史 二、通史 三、文明史・評論・考証 四、年表 五、雑史叢談 六、職官政書 七、時令 八、雑
// 天淵文庫図書目録	第二部 中国	乙 伝記	一、双伝 二、単伝 三、雑
// 神習文庫図書目録	第四門 国体・道義		三、教訓 四、勸学
	第六門 學術・論説	乙 經書	一、易經 二、書經 三、詩經 四、礼楽 五、春秋 六、孝經 七、四書 八、総義
		丙 諸子	一、儒家類(崎門) 儒家類(除崎門) 二、兵家類 三、法家類 四、雑家類 五、道家類
		丁 医学	一、医法 二、医話 三、雑
		戊 本草	一、名称 二、品考 三、食飲 四、図譜 五、雑
		巳 易曆	一、易占・風水 二、曆術・天文
	第七門 文学・語学	丙 漢文学	一、楚辞 二、別集 華人 邦人 三、総集 華人 邦人 四、詩文話 五、小説 六、雑
無窮会図書館織田文庫図書目録	儒道	丁 言語及文字	一、音韻
		經部	郡經 易類 書類 詩類 礼類 春秋類 四書類 大学類附学庸 中庸類 論語類附語孟 孟子類 孝經類
		伝部	支那撰述類 本邦撰述類 崎門学派類 女学類
	史部	支那	正史 編年類 雑史 伝記
	百家部		道家 法家 兵家 雑家 西洋道德宗教 医家附天文博物
	集部	漢文漢詩	邦人総集 邦人別集 漢人総集 漢人別集
	小学金石部	訓詁及字書類	
	演史小説		

日本漢学文献の分類について

表1 各種目録における日本漢学文献の分類設定例

無窮会図書館平沼文庫蔵書目録 (第一輯)	經部	一 易類	
		二 書類	
		三 詩類	
		四 春秋類	
		五 礼類	
		六 四書類	
		七 孝經類	
		八 諸經總義類	
		九 小学類	
	史部	一 正史雜史類	
		二 伝記類	
		三 地理類	
		四 職官政書類	
		五 書目類	
		六 金石類	
	子部	一 儒家雜家類	
		二 兵家類	
		三 農家類	
		四 医家類	
		五 天文算法類	
		六 藝術類	
		七 類書類	
		八 小説家類	
		九 道家類	
	集部	一 楚辭類	
		二 別集類	
		三 總集類	
		四 詩文評話類	
		五 詞曲類	
		六 国文雜類 雜誌類 叢書類	
無窮会図書館真軒先生旧蔵書目録	甲 經部	一 易類	
		二 書類	
		三 詩類	
		四 礼類	
		五 春秋類	
		六 孝經類	
		七 四書類	
		八 群經類	
		九 緯書類	
	乙 史部	一 紀伝類	
		二 編年類	
		三 紀事本末類	
		四 雜史類	
		五 伝記類	
		六 史評類	
		七 地理類	
		八 職官政書類	
	丙 子部	一 儒家雜家類	
		二 兵農医天算 術数類	
		三 藝術類	
		四 道釈類附耶蘇	
	丁 集部	一 別集類	
		二 總集類	
		三 詞曲類	
		四 詩文評話類	
		五 演義小説類	
	戊 雜部	一 字書類	
		二 類纂類	
		三 目錄類	
		四 金石類	
		五 博物類附器物	
		六 叢書合刻類	

表1 各種目録における日本漢学文献の分類設定例

東北大学所蔵和漢書古典分類目録 (和書)	二 哲学 宗教 教育	(一) 哲学宗教 総雑	
		(四) 儒教 諸子	一 儒教総雑 二 儒教史 三 儒教儀礼 四 儒教古典 注釈 儒教経書 儒教諸子 五 儒教教説 儒教教説総雑 古代中世儒学派 朱子学派 陽明学派 古学派 考證学派 折衷学派 心学派 諸派 六 諸子 老子 列子 楊子 莊子 韓非子 淮南子
		(五) 道教 術数	一 道教 二 術数 術数総雑 陰陽道 観相 占法
	三 歴史 地理	(一〇) 教育	一 教育総雑
		(二) 世界史	一 世界史総雑 二 東洋史 朝鮮史 中国其他各国史 三 西洋史
		(三) 伝記	一 伝記総雑 二 氏族 家系 三 合伝 外国合伝 四 各伝 外国各伝
	五 言語 文学	(二) 文字	一 文字総雑 二 漢字
		(三) 音韻	一 音韻総雑 二 字音 三 韻鏡
		(五) 語義 辞書	二字書
		(一四) 漢詩文	一 漢詩文総雑 二 漢詩文集 三 漢学者随筆雑纂 四 漢学者消息 五 小説その他 六 狂詩狂文



日本漢学文献の分類について

表2 四部分類・「日本古典籍総合目録DB」分類対照

四部分類		「日本古典籍総合目録データベース」分類(○=主要分類項目、△=その他)
經部	易類	○「漢学」「儒学」△「占卜」「相法」「易学」等
	書類	○「漢学」△「天文」等
	詩類	○「漢学」△「漢詩」「博物」「本草」等
	礼類	○「漢学」△「経済」
		周礼
		儀礼
		礼記
		三礼総義
	春秋類	○「漢学」△「考証」「祭祀」「有職故実」等
		通礼・雜礼
		「漢学」
		左氏伝
		公羊伝
	孝經類	「漢学」
		諸伝・総義
	群經總義類	○「漢学」△「漢学/暦」
		○「漢学」「儒学」△「教訓」等
	四書類	○「儒学」「漢学」△「注釈」「国学」「語学」等
		大学
		中庸
		論語
		孟子
		学庸
		論孟
		四書
史部	樂類	○「漢学」△「漢学/辞書」「音韻」等
	小学類	「音楽」「律呂新書」関連
		訓詁
		説文
		字書
		韻書
	正史類	「漢学」「史記」「漢書」「後漢書」「三国志」関連等△「雜記」「外国史」等
	編年類	○「外国史」「資治通鑑」関連△「漢学」「資治通鑑」関連
	紀事本末類	該当資料不明
	別史類	○「外国史」「十八史略」関連△「漢学」「十八史略」関連
	雜史類	「漢学」「国語」「戦国策」「貞観政要」関連等
子部	載記類	「漢学」「岡本況斎『晋史乗楚史機出典攷』」
	史鈔類	「漢学」「林東舟『三史鈔』」
	伝記類	○「漢学」△「伝記」
	史評類	「漢学」「猪飼敬所『史通通釈補正』」「唐鑑」関連
	外国史類	該当資料不明
	地理類	「漢学」「小沢精庵『水経注読記』」「猪飼敬所『水経管窺』」「外国地誌」「海防」「海国図志」関連
	時令類	「漢学」「増島蘭園『蔡氏月令補』」「岡本況斎『説蔡氏月令』」「気象」「依田利用『玉燭宝典攷証』」「不分類」「随朝若水『清嘉録評註』等」「政治」「法制」
	職官類	「漢学」「野本白巖『福惠全書註解』」「政治」「牧民」関連
	政書類	不分類「成島信通『文献通考日本考訳』」「荻生北溪『唐律疏義訂正上書』等」
	詔令奏議類	「漢学」「宮本篤村『陸氏奏議考』」「不分類」「石川香山『陸宣公奏議集註』」
	目録類	「漢学」「書誌」「書目」等
	儒家類	「漢学」「儒学」「孔子家語」「荀子」「孔叢子」「説苑」「忠経」「大極図説」「通書」「周書」「西姪」「近思録」「白鹿洞…」「敬斎箴」「小学」「朱子…」「大学衍義」「性理字義」「伝習録」…等関連
	兵家類	○「兵法」「六韜」「孫子」「呉子」「握奇経」「武経七書」「司馬法」「素書」等関連△「漢学」「孫子」「呉子」「七書」「素書」等関連
	法家類	「漢学」「管子」「弟子職」「韓非子」等関連
	農家類	該当資料少数？不分類「齊民要術」関連
	医家類	○「医学」「素問」「傷寒論」「金匱要略」関連○「本草」「本草綱目」関連△「漢学」「寺尾東海『黄帝陰府経指玄』」「河野玉鉉子『黄帝陰府経諸賢集解』」
	天文算法類	「天文」「天経或問」関連「和算」「算経」関連等
	術数類	「漢学」「五行」関連、「占卜」「梅花心易」関連資料等
	藝術類	「音楽」「芸術」「諸芸」等、「漢学」「宮崎静斎『韓退之雜説』」「三子問仁夫子答辭不同論」
	譜録類	「芸術」「諸芸」等
	雜家類	「漢学」「墨子」「呂氏春秋」「淮南子」「論衡」「蒙求」「五雜俎」関連
集部	小説家類	「漢学」「世説」「山海経」「搜神記」「遊仙窟」関連等
	類書類	「漢学」「淵鑑類函檢字」「岡本況斎『佩文韻府目次』」「漢詩」「秦滄浪『詩韻含英摘註』」
	釋家類	「宗教」
	道家類	○「漢学」「黄帝陰府経」「老子」「莊子」「列子」「抱朴子」「感応篇」「陰陽文」関連△「道教」「感応篇」「陰陽文」関連
	集部	○「漢文」「漢文集」「漢詩」「漢詩文」△「漢学」
		例:『楚辞』関連…「漢学」等
		『唐詩選』関連…「漢詩」等
		『唐宋八家文』関連…「漢詩文」等
		『文選』関連…「漢詩文」「漢学」等
		『古文真宝』関連…「漢詩文」「注釈」等、「漢学」「安東省庵編『続古文真宝後集』」

表3 日本漢学文献分類試案

分類試案				備考
大分類	中分類	小分類	小項目／細目	
漢学	総記	叢書		
		概論		伊藤東涯『学問関鍵』、江村北海『授業編』、那波魯堂『学問源流』等
		歴史		伊藤東涯『古今学変』等
	中国 古典 注釈	制度		家礼、釈奠、井田関連
		総記		経部群経総義類に相当。山井鼎『七経孟子考文補遺』、中井履軒『七経雕題略』、大田錦城『九経談』等
		五経	易	経部易類に相当。
			書	経部書類に相当。
			詩	経部詩類に相当。
			礼	経部礼類に相当。
			／総義	総義…『二礼…』『三礼…』『五礼…』等、中井履軒『深衣図解』等
			／周礼	諸雜…稲葉然斎『家礼抄略』、室鳩巢『文公家礼通考』、猪飼敬所『読礼肆考』等
			／儀礼	
			／礼記	
			／諸雜	
			春秋	経部春秋類に相当。
			／総義・諸伝	総義・諸伝…林羅山『春秋劈頭論』、林鷲峰『春秋胡氏伝私考』、松崎儼堂『春秋三伝校讎』等
			／左氏伝	
			／公羊伝	
			／穀梁伝	
	四書	四書	四書	経部四書類に相当。 伊藤仁斎『四書古義』、佐藤一斎『四書欄外書』、溪世尊『經典余師』等
			大学	経部四書類に相当。
			論語	経部四書類に相当。
			孟子	経部四書類に相当。
			中庸	経部四書類に相当。
			学庸	経部四書類に相当。
			論孟	経部四書類に相当。
		孝経		経部孝経類に相当。
			史伝	史部正史、編年、別史、雜史、史鈔、史評の各類に相当。 『史記』『漢書』『後漢書』『三国志』『資治通鑑』『十八史略』『國語』『戦国策』『貞観政要』『唐鑑』関連等
		諸子	伝記	史部伝記類に相当。
			儒家	子部儒家類に相当。 『孔子家語』『荀子』『孔叢子』『説苑』『忠経』『大極図説』『通書』『周書』『西姪』『近思録』『白鹿洞…』『敬斎箴』『小学』『朱子…』『大学衍義』『性理字義』『伝習録』関
			兵家	子部兵家類に相当。 『六韜』『孫子』『呉子』『握奇経』『武経七書』『司馬法』『素書』関連等、中山城山『東伍篇邦言解』、林羅山『唐太宗／李衛公問對諺解』
			法家	子部法家類に相当。 『管子』『弟子職』『韓非子』関連等
			雑家	子部雑家類に相当。 『墨子』『呂氏春秋』『淮南子』『顔氏家訓』『日知録』『論衡』『五雜俎』『蒙求』関連等
			道家	子部道家類に相当。 『黄帝陰符経』『老子』『莊子』『列子』『抱朴子』『感応篇』『陰陶文』関連等
			諸家	その他、子部除外類の中でも「漢学」へ分類した方が適当と思われる文献
	論説	総記		編著者複数で各学派が相違する場合
		朱子学派		『近世漢学者伝記著作大事典』『程朱学』『敬義学』
		古学派		『近世漢学者伝記著作大事典』『古義学』『復古学』
		陽明学派		『近世漢学者伝記著作大事典』『陽明学』
		折衷学派		『近世漢学者伝記著作大事典』『古注学』『折衷学』『考証学』
		諸派		その他の学派、古代中世儒学、及び編著者闕名
		含古代中世儒学、 闕名		

表4 各種漢学文献四部分類

凡例	1、収録叢書は以下の通り略称を用いる。 四=『日本名家四書註釈全書』、儒=『日本儒林叢書』、儒統=『日本儒林叢書統編』、 儒統統=『日本儒林叢書統統編』、漢=『漢籍国字解全書』、経=『日本経済大典』、 崇=『崇文叢書』、倫=『日本倫理彙編』、群=『群書類従』				
	2、各類における排列は順不同。				
編著者	書名	叢書名	編著者	書名	叢書名
<b>経部</b>					
<b>易類</b>					
真勢中州	周易釈故	漢	伊藤仁斎	大象解	儒
谷川順祐	易学階梯附言2卷	漢	太宰春台	易道撥乱	儒
榊原篁洲	易学啓蒙諺解大成4卷	漢	森東郭	易道撥乱辨	儒
谷川順祐	周易本筮指南2卷	漢	東条一堂	繫辞答問	儒
伊藤仁斎	易経古義	儒			
<b>書類</b>					
大田錦城	尚書紀聞	漢	宮田五溪	古文尚書総辨2卷	儒統統
安井息軒	書説摘要	崇			
<b>詩類</b>					
中村惕斎	詩経示蒙句解18卷	漢	中村蘭林	読詩要領	儒
淵景山	詩疏図解4卷	漢	安井息軒	毛詩輯疏	崇
伊藤東涯	読詩要領	儒	太宰春台	朱子詩伝膏盲2卷	儒統統
<b>礼類</b>					
桂五十郎	礼記	漢	増島蘭園	夏小正校注	崇
桂五十郎	礼記国字解	漢			
<b>春秋類</b>					
増島蘭園	読左筆記	崇			
<b>孝経類</b>					
大塩中斎	増補孝経彙註3卷	倫	豊嶋豊洲	孝経余論	儒
山本北山	経義揆説	儒	東条一堂	孝経両造簡孚	儒
熊沢蕃山	孝経小解2卷	漢	朝川善庵	古文孝経私記批評附2卷	儒
<b>群経総義類</b>					
太宰春台	六経略説	倫	大田錦城	九経談10卷	儒
浅見綱斎	六経編考	倫	岡田煌亨	七経割記8卷	儒統統
大田晴軒	三経小伝3卷	儒			
<b>四書類</b>					
伊藤仁斎	大学定本1卷	四	佐藤一斎	大学欄外書1卷	四
荻生徂徠	大学解1卷	四	増島蘭園	大学章句参辨3卷	四
井上金崧	大学古義1卷	四	東条一堂	大学知言1卷	四
中井履軒	大学雑議1卷	四	海保漁村	大学鄭氏義4卷	四
古賀精里	大学章句纂釈1卷	四	大塩中斎	古本大学刮目	倫
古賀精里	大学諸説辨誤1卷	四	浅見綱斎	辨大学非孔氏之遺書辨	儒
朝川善庵	大学原本釈義1卷	四	中村惕斎	大学示蒙句解2卷	漢
大田錦城	大学原解3卷	四	佐藤一斎	中庸欄外書3卷	四
伊藤仁斎	中庸発揮1卷	四	増島蘭園	中庸章句諸説参辨2卷	四
荻生徂徠	中庸解1卷	四	東条一堂	中庸知言1卷	四
中井履軒	中庸逢原1卷	四	海保漁村	中庸鄭氏義8卷	四
大田錦城	中庸原解3卷	四	中村惕斎	中庸示蒙句解	漢
伊藤仁斎	論語古義10卷	四	広瀬淡窓	読論語1卷	四
佐藤一斎	論語欄外書2卷	四	荻生徂徠	論語微10卷	四
亀井南冥	論語語由10卷	四	豊嶋豊洲	論語新註4卷	四
猪飼敬所	論語考文1卷	四	東条一堂	論語知言10卷	四
市野迷菴	正平本論語札記1卷	四	照井全都	論語解	四
皆川淇園	論語釋解10卷	四	中村惕斎	論語示蒙句解10卷	漢
吉田篁墩	論語集解攷異10卷	四	竹添進一郎	論語会箋	崇
中井履軒	論語逢原4卷	四	片山兼山	論語微廢疾3卷	崇
伊藤仁斎	孟子古義7卷	四	西島蘭溪	読孟叢鈔14卷	四
佐藤一斎	孟子欄外書2卷	四	中村惕斎	孟子示蒙句解	漢
猪飼敬所	孟子考文1卷	四	戴孤山	崇孟	儒、崇
広瀬淡窓	読孟子1卷	四	伊藤仁斎	語孟字義2卷	儒、倫

表4 各種漢学文献四部分類

中井履軒	孟子逢原7卷	四	木山楓谿	語孟字義辨	儒
家田大峯	孟子断2卷	四	伊藤東涯	訓幼字義	倫
中村楊斎	四書示蒙句解28卷	漢			
衆類					
小学類					
空海	篆隸万象名義	崇	伊藤東涯	刊謬正俗附作文真訣	儒統
昌住	新撰字鏡12卷	群	猪飼敬所	操觚正名	儒統
尾藤二洲	称谓私言	儒統	中井履軒	諧韻瑚璉	崇
山本蕉逸	童子通	漢	中井履軒	履軒古韻	崇
伊藤東涯	訓蒙用字格3卷	漢			
史部					
正史類					
編年類					
紀事本末類					
別史類					
桂五十郎	十八史略国字解	漢			
雜史類					
牧野謙次郎	戦国策	漢	陶山鈍翁	国朝訓戒録	經
牧野謙次郎	戦国策国字解	漢	中井履軒	伝疑小史	儒統統
載記類					
史鈔類					
伝記類					
西嶋蘭溪	晏子春秋考	儒統	山田思叔	山崎闇斎年譜	儒
人見竹洞	石川丈山年譜	儒	神野世猷	紀平洲年譜	儒
豊藤熟之	丈山遺墨由来之筆記	儒	会沢正志斎	及門遺範	儒
大高坂芝山	芝山南学伝2卷	儒	服部栗斎	先儒三子評	儒
大高坂芝山	南学遺訓	儒	広瀬淡窓	儒林評	儒
稲葉黙斎	先達遺事	儒	広瀬青邨	当世名家評判記前編	儒
稲葉黙斎	墨水一滴	儒	三河沙門某	秋雨談	儒
渡辺予斎	吾学源流	儒	未詳	都下名流品題辨	儒
林梅洞	史館茗話	儒	広瀬青邨	撰西六家詩評	儒
江村北海	日本詩史5卷	儒	川田瓮江	近世名家文評	儒
青山拙斎	文苑遺談3卷	儒	安積良斎	史論2卷	儒統
青山拙斎	文苑遺談統集	儒	斎藤竹堂	読史贅議2卷	儒統
細野忠陳	尾張名家誌初編2卷	儒	斎藤竹堂	読史贅議逸編	儒統
頼春水	師友志	儒	廉義斎忠敬	逢原記聞	儒統
史評類					
外国史類					
西川如見	華夷通商考	經			
地理類					
貝原益軒	筑前土産志	經	葛間勘一	地方一樣記	經
新井白石	畿内治河記	經	林羅山	丙辰紀行	儒
新井白石	奥羽海運記	經	長久保赤水	赤水先生東奥紀行	儒
西川如見	日本水土考附兩域人数考	經	西山拙斎	遊松山記	儒
植木孝因	土佐国水土私考	經			
時令類					
職官類					
政書類					

表4 各種漢学文献四部分類

熊沢蕃山	大学或問	經	陶山鈍翁	農政問答	經
山崎闇斎	壺徹問答	經	陶山鈍翁	財用說	經
浅見綱斎	識筭錄	經	陶山鈍翁	農政御下知問答	經
源宗春	社倉法師說	經	陶山鈍翁	財用問答	經
毛利貞斎	温知政要	經	陶山鈍翁	對韓雜記同附錄	經
中村楊斎	孟子井田辨	經	陶山鈍翁	潛商議論	經
新井白石	律尺考驗附三器攷略	經	陶山鈍翁	竹島文談	經
新井白石	律原發揮	經	陶山鈍翁	聖朝訓戒錄	經
新井白石	白石建議	經	仲村善均	租庸考	經
新井白石	經邦典例	經	岡鼎 柴野栗山	寬政異學禁關係文書	儒
新井白石	田法問答	經	建部清庵	民間備荒錄	經
新井白石	新令句解	經	南宮岳	歷代備荒考	經
万尾時春	勸農固本錄	經	宇井小一郎	社倉法大意	經
田中邱隅	民間省要	經			
万尾時春	井田圖考	經			
神尾包嵩	四民格致重宝記	經			
太田某	歷代租法	經			
伊藤東涯	制度通	經			
陰山元質	田禄図經	經			
詔令奏議類					
荻生徂徠	學寮了簡	儒			
目錄類					
子部					
儒家類					
西嶋蘭溪	孔子家語考	儒統	朝川善庵	荀子述	儒統
松邨九山	管仲孟子論	儒統統	桂五十郎	荀子	漢
安積良斎	荀子略說2卷	儒統	中村楊斎	近思錄示蒙句解14卷	漢
久米訂斎	晚年謾錄	儒	山崎闇斎	關異	倫
中江岷山	理氣辨論附說理氣辨論2卷	儒	貝原益軒	大疑錄2卷	儒、倫
附服部栗斎					
高瀬学山	非聖學問答2卷	儒	伊藤東涯	天命或問	倫
伊藤仁斎	誦近思錄鈔	儒	伊藤東涯	復性辨	倫
伊藤東涯	大極図說管見	儒	太宰春台	聖學問答	倫
伊藤東涯	大極図說十論	儒	森省斎	聖學或問	儒
伊藤東涯	通書管見	儒	森省斎	性論	儒
東条一堂	性命答問2卷	儒	富春山人	愚聞漫鈔	儒
鎌田柳泓	理學秘訣	儒	安積良斎	朱學管窺批評附	儒
桜田虎門	理氣鄙言	儒	室鳩巢	太極図述2卷	儒統
大橋訥庵	性理鄙說	儒	室鳩巢	西銘詳義	儒統統
浅見綱斎	聖學図講義	倫	佐藤敬菴	名義錄	儒統統
市川鶴鳴	帝範国字解2卷	漢	市川鶴鳴	臣軌国字解	漢
加藤某	朱子家訓私抄3卷	漢	中村楊斎	小學示蒙句解	漢
三重松菴	王學名義	倫	石川麟洲	辨道解蔽	儒
三輪執斎	日用心法	倫	蟹養斎	非徂徠學	儒
三輪執斎	四言教講義	倫	平瑜	非物氏	儒
佐藤一斎	言志錄	倫	井上金峨	讀學則3卷	儒
大塩中斎	儒門空虚聚語	倫	龜井昭陽	誦辨道	儒
伊藤仁斎	童子問	倫	山内退斎	梧窓客談2卷	儒
伊藤仁斎	仁斎日札	倫	荻生徂徠	徂徠學則及附錄	儒、倫
伊藤東涯	學問關鍵	倫	荻生徂徠	徂徠先生答問書	倫
伊藤東涯	古今學變	倫	谷口大雅	徂徠學則附錄問答	儒
太宰春台	辨道書	倫	上月専庵	徂徠學則辨	儒
山県周南	周南先生為學初問	倫	藤沢東咳	思問錄	儒
藤原惺窩	千代もと草	倫	豊田信貞	王學辨集	儒
中村楊斎	講學筆記	倫	山口菅山	王學駁議	儒
山崎闇斎	經名考	倫	鎌田柳泓	朱學辨	儒
山崎闇斎	仁說問答	倫	蟹養斎	俗儒辨	儒
佐藤直方	學談雜錄	倫	伊藤仁斎	極論	儒
三宅尚斎	默識錄	倫	村士玉水	一斎先生雅言4卷	儒

表4 各種漢学文献四部分類

山県大弐	柳子新論	倫	太宰春台	斥非2卷附録1卷	儒
貝原益軒	慎思録	倫	深谷公幹	駁斥非	儒
貝原益軒	五常訓	倫	並河天民	天民遺言2卷	儒、崇
貝原益軒	家道訓	經	伊藤東涯	古学指要2卷	儒
尾藤二洲	素餐録	倫	富永滄浪	古学辨疑	儒
尾藤二洲	正学指掌	倫	伊藤東涯	聖語述	儒
頼杏坪	原古編	倫	田中麗山	三才辨義3卷	儒
大高坂芝山	適從録2卷	儒	山田方谷	師門問辨論	儒
服部蘇門	燃犀録	儒	荻生徂徠	護園隨筆5卷	儒統
伊東藍田	湯武論1卷附1卷	儒	荻生徂徠	護園十筆10卷	儒統
岡田煌亨	聖学私言	儒	原双桂	桂館野乘及漫筆2卷	儒統
古賀侗庵	崇程4卷	崇	洪井太室	読書会意3卷	儒統
海保漁村	読朱筆記5卷	崇	林羅山	儒門問問録4卷	儒統
伊藤東涯	間居筆録3卷拾遺1卷	儒	伊藤東涯	經史博論4卷	儒統
五井蘭洲	瑣語2卷	儒	伊藤東涯	經史論苑	儒統
尾藤二洲	扞言	儒	荻生徂徠	護園録稿2卷	儒統
三浦瓶山	閑窓自適	儒	二山時習堂	朱王学辨	儒統統
中村蘭林	閑窓雜録4卷	儒	蟹養斎	辨復古	儒統
西山拙斎	閑窓瑣言	儒	森大年	非辨道辨名及附録	儒統
尾藤二洲	静寄余筆2卷	儒	伊藤東涯	辨疑録4卷	儒統統
尾藤二洲	冬読書余3卷拾遺1卷	儒	太宰春台	紫芝園漫筆 8卷	崇
増島蘭園	雋燕偶記	儒			
兵家類					
荻生徂徠	孫子国字解	漢	陶山鈍翁	鉄炮格式僉議条目	經
山鹿素行	武教小学	倫			
法家類					
菊地三九郎	管子	漢	蒲阪松皐	定本韓非子纂聞	崇
日尾荊山	管仲非仁者辨	儒	荻原大麓	韓子考	儒統
松平康国	韓非子	漢			
農家類					
成島錦江	東方農準並農譚拾穂	經	陶山鈍翁	老農類語	經
蓑笠之助	農家貫行	經	陶山鈍翁	農業全書約言	經
医家類					
天文算法類					
術数類					
藝術類					
譜録類					
雜家類					
牧野謙次郎	墨子	漢	山中某	恒産記	經
荻生徂徠	辨道	儒、倫	松宮觀山	学論 2卷	儒
荻生徂徠	辨名	倫	松宮觀山	学論 二編2卷	儒
山鹿素行	聖教要録	倫	松宮觀山	学脈辨解	儒
山鹿素行	山鹿語類抄	倫	豊嶋豊洲	豊子仁説	儒
山鹿素行	配所殘筆	倫	豊嶋豊洲	豊子筆談	儒
室鳩巢	駿台雜話5卷	倫	冢田大峯	聖道辨物2編	儒
雨森芳洲	橘窓茶話3卷	倫	村田庫山	新論	儒
細井平洲	嚶鳴館遺草6卷	倫	浅見綱斎	敬義内外説	儒
三浦梅園	梅園叢書3卷	倫	友部安崇	敬義内外考	儒
三浦梅園	梅園拾葉3卷	倫	佐藤直方	敬義内外考論	儒
陶山鈍翁	訥庵文章	經	皆川淇園	問学挙要	儒

表4 各種漢学文献四部分類

大田錦城	疑問録2巻	倫	松宮観山	三教要論	儒
大田錦城	仁説三書	倫	広瀬淡窓	約言附答問約言補	儒
三浦梅園	贅語抄録	倫	広瀬淡窓	約言或問	儒
三浦梅園	死生帙	倫	亀井南冥	家学小言	儒
三浦梅園	善惡帙	倫	富永仲基	翁の文	儒
三浦梅園	天人帙	倫	中井履軒	水哉子3巻	儒統
三浦梅園	敢語	倫	吉田篁墩	近聞寓筆4巻	儒統
三浦梅園	寓意	倫	井上金峩	金峩先生経義緒言	儒統
二宮尊徳	報徳外記	倫	井上金峩	金峩先生霞城講義	儒統
二宮尊徳	二宮先生語録	倫	原狂斎	原子2巻	儒統
中江藤樹	翁問答	倫	村田庫山	正論	儒統
中江藤樹	藤樹遺稿	倫	村田庫山	源源論	儒統
熊沢蕃山	集義和書	倫	井上金峩	金峩先生師辨	儒統
熊沢蕃山	集義外書	倫	東条一堂	学範初編	儒統
片山兼山	山子垂統 後編3巻	倫	宇佐美澗水	聖教類語和解及附録	儒統
井上金峨	経義折衷	倫	古賀侗庵	劉子上篇12巻	儒統
井上金峨	匡正録	倫	古賀侗庵	劉子下篇18巻補遺1巻	儒統
帆足万里	入学新論	倫	中井履軒	履軒弊帚	儒統
佐久間太華	和漢明辨 1巻附1巻	儒	中井履軒	弊帚続編	儒統
石川香山	読書正誤	儒	中井履軒	弊帚季編附補遺	儒統
高志泉溟	時学鍼燭2巻	儒	片山兼山	山子遺文	儒統
佐藤直方	辨伊藤仁斎送浮屠道香師序	儒	冢田大峯	聖道合語2編	儒統統
鈴木貞斎	辨伊藤維楨号仁斎	儒	冢田大峯	聖道得門	儒統統
西川季格	集義和書頭非2巻	儒	高松貝陵	正学指要2巻	儒統統
海保漁村	経学字義古訓	儒	日尾荊山	鞭妄	儒統統
冢田大峯	随意録8巻	儒	伊藤鳳山	学半楼十幹集3篇	儒統統
冢田大峯	解慍	儒	堤它山	教学辨2巻	儒統統
摩嶋松南	娛語4巻	儒	中村楊斎	講学筆記3冊	儒統統
西島蘭溪	清暑問談4巻	儒	安積澹泊斎	湖亭涉筆4巻	儒統統
西島蘭溪	秋堂問語3巻	儒	北条霞亭	霞亭涉筆	儒統統
西島蘭溪	続秋堂語2巻	儒	矢部騰谷	抱関休暇漫筆	儒統統
安積良斎	南柯余編3巻	儒	尾崎称斎	鳩居語	儒統統
赤崎海門	村雨夕	儒	三浦清陰	知非編	儒統統
大塩中斎	洗心洞学名及学則	儒	大井雪軒	蟻亭摭言2篇	儒統統
猪飼敬所	逸史糾繆	儒	東条一堂	学範後編	儒統統
高松貝陵	抱腹談	儒	東条一堂	一堂読書法	儒統統
海保漁村	抱腹談ノ抱腹	儒	塩谷宕陰	視志緒言2巻	儒統統
会沢正志斎	読直毘霊	儒	松宮観山	続三教要論	儒統統
会沢正志斎	読葛花	儒	滝鶴台	三之逕	儒統統
会沢正志斎	読末賀能比連	儒	源敏通	啓蒙辨	儒統統
会沢正志斎	読級長戸風	儒	海保漁村	伝経廬文鈔	崇
小説家類					
類書類					
釈家類					
道家類					
山本洞雲	老子経諺解大成10巻	漢	廬草拙	啍嚙録	倫
中井履軒	老子雕題	儒	有木雲山	道学正要	倫
毛利貞斎	莊子口義大成俚諺鈔19巻首2巻	漢	阿部漏斎	鷹起子	倫
牧野謙次郎	莊子国字解	漢	広瀬淡窓	折玄	倫
照井一宅	莊子解	儒	広瀬淡窓	義府	倫
太田玄九	張注列子国字解8巻	漢			
集部					
楚辭類					



表4 各種漢学文献四部分類

<b>別集類</b>					
都良香	都氏文集	群	頼春水	霞関掌録	儒統
島田忠臣	田氏家集	群	中井竹山	東征稿	儒統統
菅原道真	菅家後集	群	中井竹山	西上記	儒統統
大江匡衡	江史部集	群	斎藤竹堂	報桑録2卷	儒統統
藤原忠通	法性寺関白御集	群	津坂東陽	夜航余話2卷	儒統統
三輪執斎	執斎先生雜著 4卷	倫	仁井田南陽	樂古堂文集10卷	儒統統
中根東里	東里遺稿	倫	原采蘋	采蘋詩集	儒統統
中根東里	東里外集	倫	桜田虎門	鼓缶子文章4卷	儒統統
藤原惺窩	惺窩文集抄録	倫	万庵原資	万庵集 12卷	崇
広瀬旭莊	追思録	儒	頼春水	東遊負劍録	崇
田能村竹田	卜夜快語	儒	林述斎	蕉窓文章	崇
亀井南冥	我昔詩集	儒	林述斎	蕉窓永言	崇
頼春水	在津紀事2卷春水遺稿別録	儒	松崎慊堂	慊堂全集	崇
石川香山	代奕雜抄2卷	儒統	朝川善庵	樂我室遺稿	崇
<b>総集類</b>					
服部南郭	唐詩選国字解7卷	漢	(淡海三船)編	懷風藻	群
柳原篁洲	古文真宝前集諺解大成17卷	漢	小野岑守等編	凌雲集	群
林羅山諺解 鵜飼石齋大成	古文後集20卷	漢	藤原冬嗣等編	文華秀麗集	群
松平康国	正文文章軌範	漢	良峯安世等編	経国集	群
松平康国	統正文文章軌範	漢	紀斎名編	扶桑集	群
松平康国	唐宋八大家文読本	漢	高階積善編	本朝麗藻	群
松平康国	文章軌範国字解正統	漢	藤原忠通	本朝無題詩	群
			江村北海	日本詩選10卷補遺1卷	儒統
<b>尺牘類</b>					
中江藤樹	藤樹先生書翰雜著藤樹先生學術定論	倫	太宰春台	紫芝園国字書	儒
広瀬淡窓	申聞書	儒	猪飼敬所	猪飼敬所先生書柬集8卷	儒
安井息軒	上明山公書	儒			
<b>詩文評類</b>					
藤原宗忠	作文大体	群	太宰春台	文論詩論2卷	儒統統
三善為康	童蒙頌韻	群	市野迷庵	詩史顰	儒統統
清田儋叟	藝苑談	儒	熊坂台州	律詩天眼	儒統統
服部南郭	南郭先生燈下書	儒	古賀侗庵	侗庵非詩話10卷	崇
<b>詞曲類</b>					
<b>戯曲小説類</b>					